

# 7月3日(金) 同窓会総会開催

# 健康と環境

## からだと心を健やかに保つための秘訣

## 健康と環境 からだと心を健やかに保つための秘訣

同窓会総会 議題

## 二号議案 平成二十六年度事業報告、会計報告 平成二十七年度事業計画、予算計画

親会費 四〇〇〇円（但し学生は一〇〇〇円）  
年会費の三〇〇〇円は当日受付も致します  
がこの会報に同封の振込用紙によりご納入を  
お願い致します。

日時 七月三日（金）午後六時より  
場所 東京都千代田区内幸町二一一一  
日本プレスセンタービル10階  
(会場案内は下記) 記

健康は環境と関わりがある。  
そして体と心のすこやかさも繋がっている。

平成27年度 関東同窓会・懇親会を開催します



講演者

# 勝又健次氏（93期）



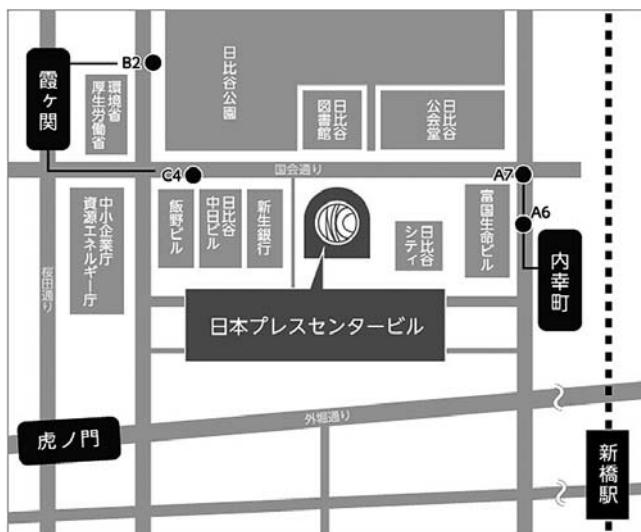
講演者

小野泰洋氏（93期）  
NHK『ニッポンの里山』プロデューサー

里山のＴＶ番組制作者と大腸ガン治療の最前線で活躍する外科医によるリレー講演。初の2本立てです。「環境」をキーワードに『里山資本主義』『腸内フローラ』といった今話題の情報を交えながら、「体」と「心」の元気の秘訣をお伝えします。心癒す静岡の田園風景の楽しみ方から、環境と病気の関係といざというとき体を守る最先端医療まで、硬軟織り交ぜてすぐに役立つ情報をたっぷりお届けします。

会場

場 日本記者クラブ 大ホール  
日本プレスセンター・ビル10階  
東京都千代田区内幸町一之一  
電話：〇三（三五〇三）一七一二  
FAX：〇三（三五九三）六三三三  
東京メトロ 千代田線・日比谷線 霞ヶ関駅C  
東京メトロ 丸ノ内線 霞ヶ関駅 B2  
都営三田線 内幸町駅 A7  
JR 新橋駅 日比谷口（Sレ 広場側）



静中・静高  
関東同窓会  
会報

静中・静高関東同窓会  
会報 第79号  
平成27年6月5日発行  
編集人 八牧浩行  
(82期)



目 次

3 頁	講演予告「静岡の里山」「環境と癌」
4 頁	会長あいさつ、「古書コミ」報告
5 頁	明治20年代静岡駅前通りの写真発見
6 頁	「人が育つ言葉」出版、「たかが同窓会」
7 頁	幹事会に80人「センバツ壮行会」に
8 頁	「女子会」はじめました！
9 頁	静高、センバツで「事実上の準優勝」 △追悼△清水汪さん、村松貴彌さん

## 平成26年度 収支決算報告書

自平成26年4月1日～至平成27年3月31日

静中・静高関東同窓会

(収入の部)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
年 会 費	2,100,000	1,904,000	△ 196,000	〒551件、現金83件、合計634件
総会・懇親会費	800,000	684,000	△ 116,000	出席会員172名、来賓外5名
会 報 広 告 料	340,000	280,000	△ 60,000	
本 部 助 成 金	250,000	250,000	0	
利 息 ・ そ の 他	50,000	12,708	△ 37,292	祝儀1万円、利息136円、古書代
計	3,540,000	3,130,708	△ 409,292	
前 年 度 繰 越 金	3,590,482	3,590,482	0	
合 計	7,130,482	6,721,190	△ 409,292	

○異業種交流会事業の古書売上代金残高 ￥2,572円

(支出の部)

総 会 費	1,250,000	1,221,325	△ 28,675	
準備費会場費等	300,000	300,995	995	
懇 親 会 費	950,000	920,330	△ 29,670	
会 報 発 行 費	1,336,000	1,200,000	△ 136,000	
印 刷 費	576,800	572,208	△ 4,592	2回分で8,000部
発 送 費	659,200	627,792	△ 31,408	6月3,833件、12月3,823件@82円
編 集 費	100,000	0	△ 100,000	
役員理事会費等	650,000	440,185	△ 209,815	
旅 費 ・ 交 通 費	25,000	16,140	△ 8,860	
銀行郵便局振込費	65,000	66,246	1,246	
通 信 費	35,000	42,138	7,138	
事 務 費	240,000	240,000	0	
消 耗 品 ・ 雜 費	55,000	58,802	3,802	
慶弔弔慰費	0	16,200	16,200	
予 備 費	30,000	0	△ 30,000	
計	3,686,000	3,301,036	△ 384,964	
次 期 繰 越 金	3,444,482	3,420,154	△ 24,328	
合 計	7,130,482	6,721,190	△ 409,292	

## 平成27年度 収支予算書(案)

自平成27年4月1日～至平成28年3月31日

静中・静高関東同窓会

(収入の部)

(単位：円)

科 目	26年度決算額	27年度予算額	増 減	摘 要
年 会 費	1,904,000	2,100,000	196,000	700名目標(前年634名)
総会・懇親会費	684,000	750,000	66,000	190名(前年177名)
会 報 広 告 料	280,000	340,000	60,000	
本 部 助 成 金	250,000	250,000	0	
受 取 利 息 等	12,708	15,000	2,292	利息、その他
計	3,130,708	3,455,000	324,292	
前 年 度 繰 越 金	3,590,482	3,420,154	△ 170,328	
合 計	6,721,190	6,875,154	153,964	

(支出の部)

総 会 費	1,221,325	1,250,000	28,675	
準備費会場費等	300,995	300,000	△ 995	
懇 親 会 費	920,330	950,000	29,670	
会 報 発 行 費	1,200,000	1,300,000	100,000	
印 刷 費	572,208	575,000	2,792	4,000部×2回
発 送 費	627,792	625,000	△ 2,792	
編 集 費	0	100,000	100,000	前年予算額と同額
役員理事会費等	440,185	500,000	59,815	役員理事会異業種交流会等
旅 費 ・ 交 通 費	16,140	20,000	3,860	
銀行郵便局振込費	66,246	80,000	13,754	
通 信 費	42,138	50,000	7,862	
事 務 費	240,000	240,000	0	前年と同額
消 耗 品 費 ・ 雜 費	58,802	60,000	1,198	
慶 弔 弔 慰 費	16,200	0	△ 16,200	
予 備 費	0	30,000	30,000	前年予算額と同額
計	3,301,036	3,530,000	228,964	
次 期 繰 越 金	3,420,154	3,345,154	△ 75,000	
合 計	6,721,190	6,875,154	153,964	

## 講演予告

## 「静岡の里山に 癒やされる」

小野 泰洋氏（93期）

最近、「若者の田園回帰」と

か「里山資本主義」といった言葉を耳にします。里山とは、人の

暮らしと自然が共生し、自然の豊かさが保たれている農山村や漁村の環境。田んぼや小川、雑木林やカヤ場など、人が利用しながら維持してきた2次的な自然です。単に農産物を生産するだけではなく、自然や生物多様性の維持、景観や国土の保全などの役目も果たしてきました。

今、その価値を見直し、新しい豊かさを求める人が増えているのです。

私は番組で全国の里山を紹介していますが、最も数多くの地域を取り上げたのが静岡県です。みなさんは、富士山が世界文化遺産に認定された2013年、国連の機関が選ぶ「世界農業遺産」に静岡県の茶畠が登録されたのをご存知でしょうか。いわば里山の世界遺産です。静岡の茶畠では、刈った草を畑に敷き詰めています。土の水分を保ち、有機肥料を与えるためです。そぐさまに刈る草地は茶草場（ちゃ

があります。近年、この茶草場が植物学者の間で有名になりました。農家が定期的に草を刈るために、日本古来の草原環境が保たれ、ナデシコやオミナエシなど絶滅に瀕している野草が残されました。美しい里山の風景には必ず人の暮らしや文化が隠れています。

沼の崩壊を防ぎながら水を浄化している伊豆のワサビの棚田、浜名湖の海苔ひびの下には本州最大級のアマモの水中草原が育まれています。天竜スギの美林で行われている月の満ち欠けを利用しても、静岡県は多様な自然共生文化に満ちたところです。

住み慣れた故郷の環境を、こ<sup>うして文化の生態学的な風景と見えてきます。人が暮らしているのになぜ美しく、自然豊かなのかという見方をすると、風景に物語が生まれ、その小さな感動が「心」に栄養を与えてくれるのです。</sup>

では、どうすれば心を動かす物語が見つかるのか。沼津市西浦のミカン畑を例に「本番」でBSで毎朝放送している「ニッポンの里山」プロデューサー。

私は、NHKの科学番組を作っています。ベースは自然番組ですが医学健康番組も4年ほど担当していました。ストレスから様々な体の病気が起きています。



## 「環境と癌の関係」

勝又 健次氏（93期）

とが話題になってきた頃です。その時、心療内科の先生から教わったリラクセーション法が意外にも自然番組のロケ現場で役立っています。講演では最後にその方法もお話しします。

生物を取り巻く共同体や、自然などは生物に常に何らかの影響を与え、それを一般的に環境影響をとよびます。多くは何ら影響を与えることもなく存在しますが、

生物にとっても自然が変化する

ことは大きな影響を与えますが、人類に限ってはこの環境を作り、破壊することも可能です。そしてその環境の変化により人間の疾病も変化してきたと言えます。

近現代までは死因の原因は肺炎などの感染症でしたが、人類は抗生素を開発し打ち勝ってきました。そして現在の死因の一

番はがんです。今やがんは二人に一人が罹患し、三人に一人の死亡原因となっています。がん

の原因として遺伝的要素は5%程度で、外的因子の占める割合が高いのです。特にタバコと食事で全体の60%の原因となっています。

タバコは吸わなくても生きていけますが、食事は人間の生きる源です。我々の食事は1970年代より急速に西洋化し、それに伴いメタボリック症候群や大腸癌などの発生が増加したとされています。食事の変化による最もショッキングな出来事が沖縄クライシスという現象でメタボリック症候群の増加によるものと推測されています。大腸癌の原因としては肉食、飲酒、纖維食、運動量などが関与していることが、様々なコホト研究で示されています。肉食により発癌性のある胆汁が多く分泌され、纖維食が減少したことこれを分解する腸内細菌が減少し、腸内フローラが変化していくのです。この腸内細菌は永らく存在意義が不明でしたが、最近の研究では人間の体で作ることのできないビタミンやカロリーを產生していることやさまざまな疾患に関与していることが解明されつつあります。過敏性大腸炎、炎症性腸疾患、大腸癌など発展途上国では少ない疾患も先進国との食事の違いと腸内細菌の変化によるものと考えられていますし、また糖尿病、肥満といった疾患との関連も示唆されています。

そしてがんの最大の原因是加齢なので予防できないこともあります。

ります。長寿国日本では高齢化とともにがん患者は増加します。がんは生活習慣の改善による1次予防、検診の2次予防が大切です。大腸癌検診では便潜血が行われていますが唾液や血液からがんのスクリーニングを行っています。日本の大腸癌手術は欧米より優れた結果を示し、また新たな手術としてはロボット支援下手術が行われています。

がんが薬物や遺伝子治療で治せる時代が来るまで我々外科医が固形がんの主役といえます。環境に関する疾患から大腸癌の治療まで、当日発表する予定です。

（経歴）

1984年	久留米大学医学部卒業
1995年	東京医科大学 外科 講師
2010年	東京医科大外科学 第3講座 准教授
2014年	東京医科大学 消化器・小児外科分野 教授
	直腸癌機能温存手術と大腸癌肝転移を専門としております。



鳥居静高校長（左）に図書券を手渡す多賀谷会長

## この2年を振り返って

多賀谷 秀保

前任の八牧会長から会長職を引き継いで、ほぼ2年がたとうとしています。

この2年、「居心地の良い同窓会」の発展を目指し、特に若い世代と女性の参画に重点を置いて、種々活動を進めてまいりました。

まず八牧会長の時から始めた年3回開催の「異業種交流会」は4月に11回目を数え、しっかりと定着してきたと思います。

11回目の交流会では33名の参加者をいただき、うち10名は100期以降の世代、女性も10名参加してくれました。

また、社会貢献を目指して「古書コミュニケーション」の

現在、関東同窓会に参加いただいている世代は、上は90代から下は20代まで大変幅広い世代に亘っています。今後も「居心地の良い同窓会」を目指し、世代を超えた交流の場を提供できるよう、いろいろ挑戦していくたいと考えています。

まずは、1冊の本からはじめよう!!

90期 山下 雅子

関東同窓会に寄付いただける

本を、総余留日（7月3日）にご持参ください。『古書コミュニケーション』に本年度も取り組みます。

役員会より

### 「古書コミュニケーション」参加のお願い

お陰様で、2014年からスタートしました『古書コミュニケーション』でございます。皆様の善意の賜物により、

さらには、女性から要望の多かった、女性だけの会「女子会」を4月某日、試験的に開催しましたが、大変盛り上がったようです。男子には理解の難しい女子特有の話もあるようですが、これも定着させたいと考えております。（8頁参照）

7月の総会においても、引き続き取り組みます。ご自身は読んだけれど、誰かに読んでもらいたい方、バーコード付のハードカバーや文庫本、新書本を1冊以上ご持参いただき、古書

換・ご寄付のほどお願いいたします。

なお、2冊以上お持ちいただければ、1冊は古書コミュニケーション会場で交換もできます。思わぬ本との出合いがあります。また、交換本を次年度の総会にご持参いただければ、その本が同窓生の間で手に手にとつながっていきます。

（古書コミュニケーションQ&A）当日の模様は平成26年6・12月号会報77号・78号をご覧ください。）静中・静高校関東同窓会会報http://shizukko-kanto.com/kaio/kaiho.htm



寄贈図書券一式

工 ツ セ 一

趣味の「古写真」蒐集

明治20年代静岡駅前通りの写真を発見！

清水 あつし (92期・古写真蒐集家)



手彩色の鮮やかな色彩が見せられないのが残念。写真も鮮明で、4K8Kテレビのよう。早朝なのか、繁華な通りなのに人気が少ない。清鶴楼2階からカメラを覗く宿泊客

自己紹介から始めたいが、高校時代から「書画骨董」趣味があつて、今は不肖国際浮世絵学会の会員にもなっている。最近の蒐集は、幕末から明治初期までの特に江戸東京の景観を描いた、浮世絵や銅版画・石版画それに鶏卵紙古写真、絵葉書の類である。自宅の中もこれら貴重稀少な収集物が所構わず置かれている。自宅の中もこれら貴重

た自分も「粗大ゴミ」として家族から「ゴミ」と一緒に捨てられかねない今日この頃である。さて、数年前ネットオークションで「静岡駅前」と称する古写真を見つけて入手した。通称「横浜写真」と呼ばれる、手彩色で綺麗に色づけされた鶏卵紙写真の大判である。明治中期まで外国人旅行者にお土産として、高価に販売されていたもので、近年日本に「里帰り」している

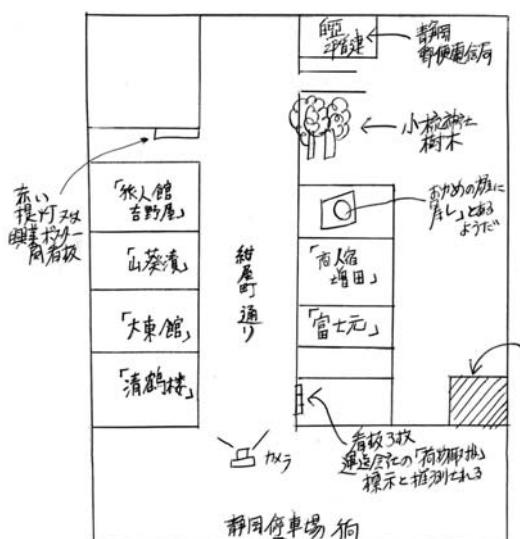
まず前提としてご理解いただきたいが、写真はかつて非常に貴重だったし、撮影にも高額の費用がかかった。写真が日本に入ってきた幕末期からの写真が

が、中には貴重な風景写真も散見される。オーディション値段もそこそこと高騰したので、同好同類の「物好き」も世の中にはいるのだろう。

この古写真だが、私が調べた限りでは郷土史は勿論、古写真関連の書籍にもなく、また長崎大学図書館や、横浜開港資料館などの古写真データベースにも無いものであった。今回このよう



明治後期・大正期の呉服町通り。絵葉書よりほぼ同じ場所の写真

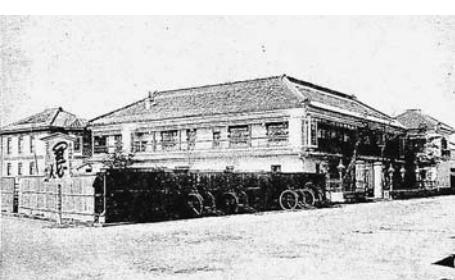


写真から地図に落とし込むことになる(カギ内が看板文字)

情報量が多くて、またそれを照合するための本や資料も多数あり、価値が高い。まず虫眼鏡で

その点、これら駅前とか繁華街で、店舗看板やポスターなど文字情報が多い写真というのは、

写した写真なのか、何が写っているのか?」がはっきりわからぬと資料的な価値は、格段に落ちる。撮影者は誰か、等も含めてディテイルが解明できる写真が、つまり「面白い」のだ。



明治26年以降に再建された洋風2階建ての大東館。手前の空き地が清鶴楼跡地  
「写された明治の静岡」(静岡市教育委員会より)

写真を精査し、看板類を読んだのが別表である。

静岡駅前の大正時代以降の写真は多数あり、場所は今の大正時代後半以降、絵葉書が爆発的なブームとなって、多くの写真が世の中に出回るようになった。その中で、今では失われた日本の「名所写真」等で、貴重な景観の写真是、私の興味をそそるのだが、やはり「いつ、どこを落とした写真なのか、何が写っているのか?」がはっきりわからぬと資料的な価値は、格段に落ちる。撮影者は誰か、等も含めてディテイルが解明できる写真が、つまり「面白い」のだ。

(1889) 年の静岡停車場開業（東海道線の全通）にあわせて同年1月9日に和洋折衷3階建てでオープンしたが、明治25年1月に火災で焼け落ち、翌年同じ場所に洋風2階建てで再建されている。この写真は明らかに3階建てで、明治22から25年に3階建てである。

手前の旅館「清鶴樓」も「大東館」に並ぶ有名旅館で、この火災の後に、この写真の右手指方向で停車場に面した場所、今の大東京UFJ銀行あたりに引越しして再建された。

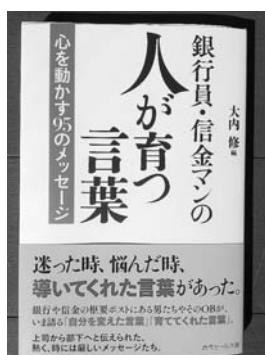
「大東館」の奥に「山葵漬」の文字が見えるが、これが今も同地にある「田丸屋本店」の看板である。同店はパンフレットによると明治8年に開業し、明治22年の静岡停車場の開業にあわせて駅構内での販売に取り組み大成功。今日の繁榮を築いた。今の店舗はこの明治期より少し奥に移転したようだ。

「旅人館吉野屋」、それに右側の「商人宿増田」も、「静岡市旅館業組合誌」に名前が残る旅館だ。いずれも東海道府中宿のあつた伝馬町からこちらに移ってきた、または支店を出した旅館である。東海道線全通の明治22年ごろ、新橋停車場から静岡まで7時間半を要し（丹那トン

写真の右手奥の白い大きな洋館風が、明治22年築の「静岡郵便電信局」である。電信柱が3本立っているが、電信用の柱であって、電力ではない。静岡が通るのは明治30年以降である。右側の看板「富士三元」は、詳細は不明。(『静岡繁昌記』等文献を参考)

以上書き連ねてきたが、さて「古写真の楽しみ」とは一体何だろう? それは、見つめ続ける内に、不意に画面の中の人たちが動き出してきそうな、不思議な感覚だ。タイムスリップといふか、いやこのような過去の日々が、つい手の届きそうな身近な過去に確かにあったのだ。リアルに感じとれる一瞬である。

しかしそれ以外に何も無い、世の中に役に立たない「無為」の趣味である。その「駄蕩とした時間だけが流れ去っていくような、無為な感じ」が、またいい。と



「人が育つ言葉」を出版

82期  
大内修

いうような「不要不急な」趣味の話に多くの紙幅をお借りして恐縮だが、この大東館の跡が後に日興会館になり、今は「葵タワー」が建っている。そこの「ブケトーク」を近年会場を開催している静中静高同窓会総会を聞き、縁無きにしもあらず（！）、とうとう二度目頃、こゝ。

その過程で印象に残ったことを二つ。

否否、わが静高同窓会のことではありますん。

詳しいいたいが具体的な「言葉」と「その時の状況」を取材し編

は会員の心に残っている。さるば！ 静高同窓会！」

国への滅亡、自宅焼失、結核に罹患……夢中で走り抜けた当時を思ふと、あれが私の青春の盛りでした」。文理11経・今村玲一郎さんのこんな歌「散り急ぐ寮の桜を背に受けて 過ぎゆく春を 友と惜しみぬ」。解散の告号「龍爪」は同窓生の惜別の一想いに溢れていました。

私は、一九七〇年四月三三菱銀行（現三菱東京UFJ銀行）に入行、一九九八年五月に退職し、同月ダイヤモンドリース（現三菱UFJリース）に転籍して二〇一二年六月にリタイアするまでの四十二年間、金融業界で仕事をしてきた。その経験を生かし、リタイア後今までに三冊の書籍を出版してきた。

一つは、信頼を寄せているる司や先輩の「言葉」が、「薰陶となってその後の成長の大さな原動力になつたり、失意から立ち直る重要なきつかけになること。あらためて、「言葉には非常に強い力があること実感したことだ。

旧制静岡高等学校の同窓会のことです。先の文章は旧制静岡同窓会の会報「龍爪」が解散の予告をした号に載ったもの、文一甲・宮下祐一さんの感慨です。また23文二・原善三郎さんは「……旧制高校で三年の春を送り得た幸運を今しみじみと語る。」

## たかが同窓会、

## されど同窓会

71期 浦田 彰

だきたい。  
本書は、現役でご活躍中の会



国に組織を広げ活動を続けてきました。旧制高校が集まる全国寮歌祭での熱狂ぶりはテレビで中継され、バンカラ世代の郷愁を誘ったものです。学校が無くなつて62年。同窓生で「龍爪」の編集長だった23文一・上杉重吉さん（新制静高に編入60期）によれば、同窓会は存続し活動を続けたものの、新規卒業生は無し、同窓生の高齢化は進む中、五千余名の卒業生も大半が鬼籍に入り、解散をもつて有終の美を飾る以外には道はなかつた、ということです。

旧制静岡高等学校の同窓会が解散したのは平成24年11月16日、盛大な解散大会をもって90年近く続いた歴史に幕を閉じました。いうまでもなく旧制の高等学校は昭和25年の学制改革によって消滅。静高も新制静岡大学と姿を変えました。それでも旧制静高同窓会は存続し、九州静高会、

のです。私の家人が卒業した高  
校（女子高で創立百数十年を誇  
る）の関東同窓会も今年の総会  
で解散するそうです。若い世代  
の同窓会離れに拍車がかかり、  
幹事役の後任がどうしても見つ  
からず、自然消滅というわけで  
す。女性には“同じ釜の飯を食つ  
た”とか“同期の桜”なんてい

のゴルフ大会などで縛を確かめ合っているといいます。しかし、当然、新入会員はゼロですし、OBたちの高齢化が進めば自然解散は必至です。お互い会えば話題はマイナーになるよ、と猛烈社員だったOBの述懐です。さて、皆さんの中多くは、定年その他で職場を離れた後、社友

「旧制静高寮歌」

詩／坂田一郎 曲／舛井喜寿計  
三、♪思ひこりては虹なして  
(大正12年作)

東海の空紅にそむ  
慷慨悲歌の響きあり  
熱血ここに胸つけば  
俗塵いつかひそまりて  
焰のごとき情熱に  
駿府城下の月影は  
さやけき光うつすなり

春の選抜・敦賀氣比戦。残念!  
9回裏、サヨナラ負け。しかし  
し甲子園2連勝とは近来にない  
快挙。

快挙だ  
ナイの健闘を支えた陰に支援カンパがあった。皆それぞれ応じたと思う。その中に同期の故・梅原孝允君（平成23年没）の夫人・千恵子さんがいる。亡くなつたご亭主の遺志だと夏春

ともカンパに応じてくれた。梅原も喜んで天国から声援を送つただろう。亡き卒業生ですら応援する静高野球だ。がんばれ！

冬の総会

がんばれ！夏の甲子園が待つて  
いる。





追悼

元静中・静高関東同窓会長

清水 汪さん

61期 諸田 実



静中・静高関東同窓会の元会長、清水 汪さんが平成26年（2014）4月18日に87歳でお亡くなりになった。いつかは来る別れの時とはいえ、70年以上にわたってご交誼、ご指導を戴いた後輩としては痛恨の極みである。告別式には、衆議院議長や日銀総裁の姿もみえ、会葬者の列は式場の外にまで続いた。

清水さんは静中第59期、戦争たけなわの昭和19年（1944）の卒業である。陸軍士官学校在学中に敗戦を迎えた後、旧制静岡高校、東京大学法学部を卒業、昭和26年（1951）大蔵省入省、銀行課長、関税局長を経て昭和57年（1982）環境事務次官に就任、退官後は（財）金融情報システムセンター理事長、（財）農林中金総合研究所理事長のほか政府の各種審議会の委員を勤め、静岡精華学園理事

長をされていた。『水と緑を守る農林水産業』（東洋経済新報社、1994年）の編著書があり、日本経済新聞に「私の履歴書」を、静岡新聞に「窓辺」を連載したこともある。平成9年（1997）秋の叙勲では勳二等旭日重光章を受賞する栄誉に浴した。財政・金融と環境の分野で活躍し、テニスを続けていたから各方面に知己が多く、清水さんのお世話になつた同窓生は多かつたと思う。又、明治神宮外苑テニスクラブの正会員でもあった。

私の知る清水さんは静中庭球部の2年先輩の清水さん、旧制静岡庭球部の主将でダブルスのパートナーであった清水さん、亡くなる直前まで2つの庭球部のOB会の中心であつた清水さんである。

静中の清水さんたち学年の部員は4人とも上手で、昭和17年（1942）の関東大会では、ダブルスの決勝はこの4人の静中同士であった。しかしテニス中同士であった。しかしテニスはそこまで、この年の終わりには球技は敵性スポーツとして禁止され、部は解散した。戦後の旧制静高では主将としてインターハイ初優勝に導いた。昭和21年（1946）秋に復活した大会で惨敗してから、戦争中芋畑になっていたコートを復旧し、猛

練習を積んで昭和22年（1947）夏の大会で優勝するまでの10か月間のこととは、いまでも忘ることができない。

その時のこと、1回戦不戦勝という籤を引き当てた清水さんは帰りに「あんみつ」を食べて腹を壊し、2回戦はベンチで休んだ。もちろん準決勝と決勝ではダブルス、シングルスとともに勝つて、優勝の原動力になつたが、若い日のこんな微笑ましい失敗談を書いても、清水さんは笑って許して下さるだろう。

いまはただ安らかな想いを祈るばかりである。

（清水さんは平成16年から22年まで静中・静高関東同窓会会長を務められました）

### 前会報編集人

村松貴彦君をおくる

77期 栗田 收司

昨年の12月、本会報の前編集人だった村松貴彦君が逝った。

古希を過ぎた同期の77期生とはそこまで、この年の終わりには云え、ずいぶん早すぎたとの思いで残念でならない。

彼は平成16年12月（58号）から23年12月（72号）までの7年間、この「静中・静高関東同窓会会報」の編集人として立派な紙面を作り続け、静中・静高同窓生の絆を支えてくれた。



村松貴彦君が“編集・発行責任者”だった「静岡県立静岡高校七七年卒業生還暦記念誌」

き作品だ。

村松君は、野球が大好きだったお父さんの思いを受けて、中学時代に続き静高でも野球部に入つて活躍したが、「思うところがあつて」2年生の夏に退部して学業に専念することになった。

「彼が続けていたら、静高はもっと強かつただろ」とは同期の石山建一君の言葉で、父親のところには「貴彦に野球を続けさせろ!」と後援会の人達が押しかけたとの噂もあつた。

また村松君は東京教育大学（現筑波大学）に進んでも野球部に入り、国立大の全国大会でベストナインになりノンプロからも声が掛かったと云われていた。

この記念誌は寄稿者百数十名を超えて250頁に亘る大作で、後藤さんが「心配しました。ほとんどの相談もなしでどん

どん一人で進めていくんですから。」と回顧しているように、編集

は村松君一人の行動力が作り上げたものだ。

彼は編集後記で「企

画の言い出しつぶで、何とか形になつた。」

と謙遜しているが、我々77期生にとって夏の甲子園野球準優勝とともに記念に残る誇るべき作品だ。



同期の仲間との箱根駒ヶ岳ドライブを楽しむ村松君(左端)

るから、同期の安達忠良君は「彼は敢えて出版社を選んだ。このあたりが『文武』の分かれ目だった。しかし静高の『文武両道』を行った男だった」と愚んでいる。その野球人としての実力もさることながら、あの明るさや大らかさは野球人として培つたものだ。

村松君はゴルフ誌の編集部にいたからゴルフもよくやったし、その縁で77期のゴルフ好きも面倒見の良い彼にはすいぶんお世話になった。

私はスポーツマンとしての村松君を知らない。彼とは中学校は異なり静高でも同級になったことはない。彼が学研「週刊パーゴルフ」の編集長の時に私は勤めた会社の広報担当だったから、同期会で一緒になるうちにお互いいの仕事に興味を持ち始めて付き合いができた。

したがって、私は彼のスポーツマンとしてではなく、文士としての雰囲気にものすごく魅力を感じていた。時にはドキッとするような指摘をしてジャーナリストとしての鋭さを見せる時もあったが、どちらかと云うと自由人としての洒脱さや飘々として大様な人柄が好きだった。村松君は長身で好男子、その雰囲気が写真で知る村松友視先輩に似ているので、「君は村松楓

か?」と訊いたら、「ううん、遠い親戚かもしない。」的なことを言っていたが彼自身にも確証はないようだった。

村松君は静岡に帰つてからも関東同窓会会報の編集人を続けた。編集の度にバッグを肩にかけ神田の野方君の法律事務所に現れ、ひと仕事終わると飲み会の声が掛かった。

いくら飲んでもダメになることがない、「誰からも好かれた

人」と後藤さん、「天性の自由人」と野方君が評価するが、ふと気づくと目の前に彼がいて、

「おいくぞ!」と声が掛かりそうで懐かしい。ひとことで言えば惚れぼれするようないい男だった。

心からご冥福をお祈りする。  
合掌

阪神電気鉄道は甲子園球場のグラウンドのベンチ前に並んで、東西に並んで、150万部を超える大ヒット同名小説が原作です。テレビで、くりいむしちゅーの有田哲平さんが、「これはもう最高傑作のミステリー」と絶賛したことで話題になりましたので、ご存じの方も多いと思います。

ラブストーリーが、最後に驚愕のミステリーに変貌することから、「映像化不可能」と言われていましたが、ついに実写映画化され、松田翔太さん、前田敦子さん、木村文乃さんという豪華キャストが揃ったこともあり、大注目されています。物語の半分が、静岡編となっており、「シティプロモーション課」で活躍中の萩原さほり氏(静高104期)から映画「イニシエーション・ラブ」の紹介がありました。

静岡市の風景満載で全国公開中です。

(萩原氏からのご案内)

◆校歌をナマで甲子園で  
歌える静高OBは幸せ!

この映画は、80年代の静岡市と東京が舞台となっているストーリーで、150万部を超える大ヒット同名小説が原作です。テレビで、くりいむしちゅーの有田哲平さんが、「これはもう最高傑作のミステリー」と絶賛したことで話題になりましたので、ご存じの方も多いと思います。

## 世代を超えた同窓の絆 奮つて参加を!!

10月23日に第12回異業種交流会

静中・静高関東同窓会の異業種交流会は、2015年10月23日に第12回を開催します。毎回多くの方々にご参加いただいております。楽しく有意義なひと時を共有しましょう。

世代を超えて多くの方々にご参加いただいております。第12回のファーストスピーチは、元日本生命副社長の石橋三洋さん(77期)です。

ツイッターでも発信されています。(静中・静高関東同窓会からに交流の輪を広げていきましょう。「異業種交流会」@shizukoukantou)

## ◆静岡市で撮影された映画『イニシエーション・ラブ』が公開中!

静岡市役所の東京事務所で勤務し、現在静岡市本庁に戻つて

「シティプロモーション課」で活躍中の萩原さほり氏(静高104期)から映画「イニシエーション・ラブ」の紹介がありました。



三保から仰ぐ富士

日 時 2015年10月23日(金) 午後6時30分～9時  
会 場 日本プレスセンタービル 日本記者クラブ9階 会議室  
会 費 4千円 家族・現役学生2千円

(ご参加は左記にご連絡ください)

E-mail kkasamatsu-rep@wine.ocn.ne.jp  
もしくはFAX 03-3215-79820 (静中・静高関東同窓会事務所) してください。

異業種交流会事務局 篠松 一久

実際に、静岡のシーンは、静岡市で撮影されました。静岡市内では、常磐公園、国道150号線、浅間通り、茶町通り、飲食店等々が登場します。静岡市のロケ地を紹介した「ロケ地マップ」も作成し、ロケ地巡りの観光客誘致に力を入れています。

ラブストーリーですが、80年代の話なので、40代以上の方には、出てくるモノ・音楽も懐かしみながら、楽しんでいただけます。ぜひご覧ください!! 「ロケ地マップ」は、6月より静岡駅と清水駅の観光案内所などで配布します。

### ◆原稿・写真を募集します!

静中・静高関東同窓会の本会報(年2回)は、同窓生と関係者が老若男女問わず行き来する「情報広場」「ニュース交差点」です。

関東での同期会等の開催、同窓生参加イベント、同窓生の活躍ぶり、エッセーなど、お気軽に投稿してください。ファイル添付で以下のメールアドレスにお送りいただければ幸いです。郵送の場合は左記関東同窓会宛にお願いします。

会報は

yamak@recordchina.co.jp(八牧)

ホームページは  
ishikawa@yu-to.jp(石川)

静中・静高関東同窓会事務所  
3-7-13 藤下ビル6F  
野方法律事務所内

### 編集後記

▽7月3日の総会・懇親会が迫ってきました。初のリレー講演のテーマは「健康と環境」。誰もが関心のある話題ですね。幹事期93期の皆さん、世代を超えた有意義な出会いの場となるよう早くから準備してくださっています。是非おいでいただき、仲間と旧交を温めてください。

快進撃を続ける静高野球部の話題でも盛り上がりそうです。3回目となる「古書コミ」(4頁)も実施いたします。

▽清水あつし氏(92期)のエッセー「明治20年代の静岡駅前通りの写真発見!」(5頁)は、県紙なら一面を飾るようなスクープと言えるでしょう。東海道有数の大都会なのに閑散とした駅前ですが、当時の中心地が札の辻(七間町)付近だったことも関係しているのかもしれません。看板が漢字ばかりなのも歴史を感じさせます。総会当日に美しいカラーの原写真を披露していただこう予定です。

▽清水あつし氏(92期)のエッセー「明治20年代の静岡駅前通りの写真発見!」(5頁)は、県紙なら一面を飾るようなスクープと言えるでしょう。東海道有数の大都会なのに閑散とした駅前ですが、当時の中心地が札の辻(七間町)付近だったことも関係しているのかもしれません。看板が漢字ばかりなのも歴史を感じさせます。総会当日に美しいカラーの原写真を披露していただこう予定です。

(八牧浩行)



代表取締役 久野泰可(83期) 取締役 久野淑子(83期)  
本部 東京都渋谷区恵比寿西1-20-6 K&S恵比寿ビル7F  
TEL 03-3463-3815

**安全を光に託して**

人とクルマの安全は私たちの願いです。  
グローバルサプライヤー 小糸製作所

Lighting For Your Safety

**Koito**

<http://www.koito.co.jp>

[本社] 東京都港区高輪四丁目8番3号 TEL:03-3443-7111  
[工場] 日本、USA、UK、チェコ、タイ、インド、中国、メキシコ 他  
代表取締役会長 大嶽隆司(74期)

# 平成二十六年度 静中・静高関東同窓会会費拠出者一覧表

ご協力ありがとうございます。

近藤 希賢 西田 豊馬 大畑 忠夫 小沢 忠樹、法月 重雄、中田 千束 岩井 平一郎 島村 悟	川田 昭、高橋 裕、朝比奈正二、狩野 和男、 内田 武二、田澤 義彦、信夫 邦三、青山 勇 石関 忠雄、上杉 重吉、井田 淳、堤 崇 岡田 尚、原田 龍一、時田 正康、萩原 莊太郎、 山本 正三 清水 照彦、大石 次男、高村 岳史、山崎 和夫、 稻森 慎二、西田 駿之介、藪崎 昭 香川 一郎 新井 彰、狩野 達彦、杉本 哲、増田 政雄、 遠藤 栄、馬場 泰男、竹内 豊、佐野 旭 永田 進一、野澤 正憲、村上 嘉代、吉井 駿亮、 塚本 光彦、猿谷 秀雄、仲野 實、栗田 行雄 大坪 信之、石川 刃二、久保 泰夫、馬渕 逸明、 菊田 總裕、内田 幸雄、藤原 朝則、原野 谷朋司、 馬越 峻、村松 武司、小林 五郎、茂木 為男、 山梨 裕司 関根 和郎、手塚 重明、松岡 健、大石 修而、 鈴木 敏行、朝比奈正三、杉田 勝男、児島 英男、 岡村 英二郎、増田 安国、遠藤 一彦、小杉 謙一、 小沢 皎二、神谷 幸男、小杉 弘 秋山 和也、吉崎 英輔、岩瀬 順郊、宇田 貞子、 鈴木 俊彦、築地 六郎、大石 康博、杉山 和子、 鈴木 昭夫、荒谷 じつ子、塚本 浩司、磯西 洋、 森下 健、栗田 瑞夫 倉田 聰、原 久弥、土谷 尚子、田島 照介、	59 60 61 60 59 58 57 55 54 52 48
谷川 治弘、奥津 きみ子、高林 彰夫 片山 智司、白井 一暢、清水 令一郎、清 智 富田 三樹、宮代 省一、中村 龍二、関 哲男、 石山 博、仁科 正雄、増井 満男、有田 久、 山田 恒男、久澤 正雄、仁科 俊介、白石 道子、 川村 良平、大場 良臣 下 薫、小池 啓治、遠藤 吉隆、谷口 滋 橋爪 尚也、山田 勝司、前田 利彦、宮崎 次郎、 伊藤 勝、石川 宏、本間 啓司、後藤 弘枝、 富野 壽、西野 章、望月 祐言、矢部 正和、 長倉 真一、繁村 一雄、青木 庄一郎、山本 雅司、 片山 嘉博、浦田 彰 花田 守弘、清水 雅彦、山田 勝、柚原 慶輔、 山口 公子、佐藤 修一朗、仁藤 宏次、深田 均、 内藤 博次、村手 正之、夏目 雅之 西本 昇平、大木 茂、榎原 由之、塩津 浩、 中西 英一、松永 烈、岡本 修、高橋 美智子、 鈴木 聰男、松下 勝朗、後藤 孝子、遠山 敦子、 渡邊 雅俊、鈴木 豊、山梨 由記 藤原 紹史、佐藤 鐘司、岩崎 匡利、角谷 治子、 佐藤 薫郷、望月 保、桑原 伊玖子、 田中 佐知子、大嶽 隆司、井出 宏嗣、松永 竹生、 萩原 茂春	71 72 73 72 71 70	
谷川 治弘、奥津 きみ子、高林 彰夫 片山 智司、白井 一暢、清水 令一郎、清 智 富田 三樹、宮代 省一、中村 龍二、関 哲男、 石山 博、仁科 正雄、増井 満男、有田 久、 山田 恒男、久澤 正雄、仁科 俊介、白石 道子、 川村 良平、大場 良臣 下 薫、小池 啓治、遠藤 吉隆、谷口 滋 橋爪 尚也、山田 勝司、前田 利彦、宮崎 次郎、 伊藤 勝、石川 宏、本間 啓司、後藤 弘枝、 富野 壽、西野 章、望月 祐言、矢部 正和、 長倉 真一、繁村 一雄、青木 庄一郎、山本 雅司、 片山 嘉博、浦田 彰 花田 守弘、清水 雅彦、山田 勝、柚原 慶輔、 山口 公子、佐藤 修一朗、仁藤 宏次、深田 均、 内藤 博次、村手 正之、夏目 雅之 西本 昇平、大木 茂、榎原 由之、塩津 浩、 中西 英一、松永 烈、岡本 修、高橋 美智子、 鈴木 聰男、松下 勝朗、後藤 孝子、遠山 敦子、 渡邊 雅俊、鈴木 豊、山梨 由記 藤原 紹史、佐藤 鐘司、岩崎 匡利、角谷 治子、 佐藤 薫郷、望月 保、桑原 伊玖子、 田中 佐知子、大嶽 隆司、井出 宏嗣、松永 竹生、 萩原 茂春	71 72 73 72 71 70	
谷川 治弘、奥津 きみ子、高林 彰夫 片山 智司、白井 一暢、清水 令一郎、清 智 富田 三樹、宮代 省一、中村 龍二、関 哲男、 石山 博、仁科 正雄、増井 満男、有田 久、 山田 恒男、久澤 正雄、仁科 俊介、白石 道子、 川村 良平、大場 良臣 下 薫、小池 啓治、遠藤 吉隆、谷口 滋 橋爪 尚也、山田 勝司、前田 利彦、宮崎 次郎、 伊藤 勝、石川 宏、本間 啓司、後藤 弘枝、 富野 壽、西野 章、望月 祐言、矢部 正和、 長倉 真一、繁村 一雄、青木 庄一郎、山本 雅司、 片山 嘉博、浦田 彰 花田 守弘、清水 雅彦、山田 勝、柚原 慶輔、 山口 公子、佐藤 修一朗、仁藤 宏次、深田 均、 内藤 博次、村手 正之、夏目 雅之 西本 昇平、大木 茂、榎原 由之、塩津 浩、 中西 英一、松永 烈、岡本 修、高橋 美智子、 鈴木 聰男、松下 勝朗、後藤 孝子、遠山 敦子、 渡邊 雅俊、鈴木 豊、山梨 由記 藤原 紹史、佐藤 鐘司、岩崎 匡利、角谷 治子、 佐藤 薫郷、望月 保、桑原 伊玖子、 田中 佐知子、大嶽 隆司、井出 宏嗣、松永 竹生、 萩原 茂春	74 75 76 75 74 73	
谷川 治弘、奥津 きみ子、高林 彰夫 片山 智司、白井 一暢、清水 令一郎、清 智 富田 三樹、宮代 省一、中村 龍二、関 哲男、 石山 博、仁科 正雄、増井 満男、有田 久、 山田 恒男、久澤 正雄、仁科 俊介、白石 道子、 川村 良平、大場 良臣 下 薫、小池 啓治、遠藤 吉隆、谷口 滋 橋爪 尚也、山田 勝司、前田 利彦、宮崎 次郎、 伊藤 勝、石川 宏、本間 啓司、後藤 弘枝、 富野 壽、西野 章、望月 祐言、矢部 正和、 長倉 真一、繁村 一雄、青木 庄一郎、山本 雅司、 片山 嘉博、浦田 彰 花田 守弘、清水 雅彦、山田 勝、柚原 慶輔、 山口 公子、佐藤 修一朗、仁藤 宏次、深田 均、 内藤 博次、村手 正之、夏目 雅之 西本 昇平、大木 茂、榎原 由之、塩津 浩、 中西 英一、松永 烈、岡本 修、高橋 美智子、 鈴木 聰男、松下 勝朗、後藤 孝子、遠山 敦子、 渡邊 雅俊、鈴木 豊、山梨 由記 藤原 紹史、佐藤 鐘司、岩崎 匡利、角谷 治子、 佐藤 薫郷、望月 保、桑原 伊玖子、 田中 佐知子、大嶽 隆司、井出 宏嗣、松永 竹生、 萩原 茂春	78 79 80 79 78 82	
谷川 治弘、奥津 きみ子、高林 彰夫 片山 智司、白井 一暢、清水 令一郎、清 智 富田 三樹、宮代 省一、中村 龍二、関 哲男、 石山 博、仁科 正雄、増井 満男、有田 久、 山田 恒男、久澤 正雄、仁科 俊介、白石 道子、 川村 良平、大場 良臣 下 薫、小池 啓治、遠藤 吉隆、谷口 滋 橋爪 尚也、山田 勝司、前田 利彦、宮崎 次郎、 伊藤 勝、石川 宏、本間 啓司、後藤 弘枝、 富野 壽、西野 章、望月 祐言、矢部 正和、 長倉 真一、繁村 一雄、青木 庄一郎、山本 雅司、 片山 嘉博、浦田 彰 花田 守弘、清水 雅彦、山田 勝、柚原 慶輔、 山口 公子、佐藤 修一朗、仁藤 宏次、深田 均、 内藤 博次、村手 正之、夏目 雅之 西本 昇平、大木 茂、榎原 由之、塩津 浩、 中西 英一、松永 烈、岡本 修、高橋 美智子、 鈴木 聰男、松下 勝朗、後藤 孝子、遠山 敦子、 渡邊 雅俊、鈴木 豊、山梨 由記 藤原 紹史、佐藤 鐘司、岩崎 匡利、角谷 治子、 佐藤 薫郷、望月 保、桑原 伊玖子、 田中 佐知子、大嶽 隆司、井出 宏嗣、松永 竹生、 萩原 茂春	82 81 80 79 78 82	

谷川 治弘、奥津 きみ子、高林 彰夫  
片山 智司、白井 一暢、清水 令一郎、清 智  
富田 三樹、宮代 省一、中村 龍二、関 哲男、  
石山 博、仁科 正雄、増井 満男、有田 久、  
山田 恒男、久澤 正雄、仁科 俊介、白石 道子、  
川村 良平、大場 良臣  
下 薫、小池 啓治、遠藤 吉隆、谷口 滋  
橋爪 尚也、山田 勝司、前田 利彦、宮崎 次郎、  
伊藤 勝、石川 宏、本間 啓司、後藤 弘枝、  
富野 壽、西野 章、望月 祐言、矢部 正和、  
長倉 真一、繁村 一雄、青木 庄一郎、山本 雅司、  
片山 嘉博、浦田 彰  
花田 守弘、清水 雅彦、山田 勝、柚原 慶輔、  
山口 公子、佐藤 修一朗、仁藤 宏次、深田 均、  
内藤 博次、村手 正之、夏目 雅之  
西本 昇平、大木 茂、榎原 由之、塩津 浩、  
中西 英一、松永 烈、岡本 修、高橋 美智子、  
鈴木 聰男、松下 勝朗、後藤 孝子、遠山 敦子、  
渡邊 雅俊、鈴木 豊、山梨 由記  
藤原 紹史、佐藤 鐘司、岩崎 匡利、角谷 治子、  
佐藤 薫郷、望月 保、桑原 伊玖子、  
田中 佐知子、大嶽 隆司、井出 宏嗣、松永 竹生、  
萩原 茂春

松井 義之、山内 幸太郎、大岩 蓮、森 正毅、  
深山 源一、石間 啓一、加藤 雅久、杉山 武、  
渡辺 徹、栗田 収司、野方 重人、清水 雅尚、  
石橋 三洋、勝間田 正喜、佐藤 昌男、  
小長井 奎幸、伊藤 達雄、三浦 昭彦、岡本 天晴、  
五島 綾子、飯島 千代美、飯田 善久

鎌田 勇、安本 恭介、石田 久徳、牧浦 義孝、  
増田 煎、石山 喬、杉原 進、垣生 尚敬、  
奥山 和子、石原 康男、望月 昭彦、山本 勇夫、  
縣 保佑、加藤 禮三、天草 静子  
江川 豪雄、富野 興、山本 勝、菅野 佳男、  
野村 公美、上田 尚亮、野口 政明、須川 恒次、  
小川 郷太郎  
久保田 政美、小木 哲朗、風戸 学、角谷 勝彦、  
鈴木 勝、柴田 裕、吉田 和悦、増田 安久、  
上出 和子、諸星 勝保、飯田 早苗、長島 孝太郎、  
小川 郷太郎  
池ヶ谷 吉人  
宮崎 太加志、松永 旭、森下 鉄夫、白井 勉、  
伊井 和良、鈴木 一郎、鳩田 政子、仲谷 博明、  
英 嘉明  
堀内 淳司、石津 保彦、大村 多聞、田島 幸司、  
田畠 秀典、石川 倫男、小野 宏、伊達 新之輔、  
富坂 修、永野 順治、吉岡 宜治、岩崎 年史、  
池田 整、石川 康宏、遠藤 良治、青山 修二、  
青木 式、伊沢 佐知子、金子 恵子、荒牧 喬平、  
青木 健一、石部 憲治、伊東 憲、多賀谷 秀保、  
八牧 浩行、大石 正幸、細川 晃、吉田 昌史、

- 各期ごとに幹事役を決めて同期会の活発化を図っています。
- 幹事未定の期は至急選出して連絡してください。

関東同窓会の会計年度は、4月1日より3月31日までのものです。静岡本部は10月1日からで、異なりますのでご注意ください。

関東同窓会会費  
一年間 3000円

一年間  
3000題

関東同窓会の会計年度は、4月1日より3月31日までのものです。静岡本部は10月1日からで、異なりますので、「主張よくござり」。

注!!  
コンビニ

同封の郵便局納入用紙で行って下さい。

## 関東同窓会費納入の う頃、

お願い

関東同志会は会員の会費（年間3千円）で運営されています。同志会会費の集まりは多いとは言えません。同窓生、同期生に声を掛け合い、ご協力を願いします。同封されている郵便局振込用紙をご使用ください。

90	89	88	87	86	85	84	83
山下 雅子、深沢 英昭、佐野 雅明、森田 悅三、 望月 博之、池上 まり子、宗野 和夫、小川 修史	北村 美佐子	高橋 宏 谷口 ひとみ、宇佐美 博高、江間 彰夫、 矢部 みはる、片山 秀、木村 幹夫、大石 裕、 五月女 久枝、鈴木 攻、姫野 友美、田中 育恵	湯山 茂徳、小宮 幸夫 安倍 敏陽、小林 俊隆、田村 勉、望月 猛、 横山 文子、平岩 正史、石川 嘉和、沢井 良輔、 高橋 宏	増井 喜一郎、高橋 成彰、望月 光、佐野 幾子、 池田 幸司、竹田 徹、北條 正裕、伊東 成師、 三上 瞬夫、富谷 史子、遠藤 とも子	水越 伸昭、小木 勝実、野口 洋一、杉山 順一、 吹井 承三、杉山 昇、成田 恵理子、古谷 良樹、 塩谷 立、柳沢 正芳、生駒 光博、小澤 治夫、 古谷 良樹、曾我 恵一	大石 高志 山本 政博、杉山 哲雄、杉山 由紀子、	篠原 良孝、野呂 克実、西野 直樹、松永 吉隆、 渡水 実根子、富永 武則、増井 敬、久能 泰可、 久能 淑子、鈴木 秀孝、中村 豊、馬場 信幸、 青木 興治
山下 雅子、深沢 英昭、佐野 雅明、森田 悅三、 望月 博之、池上 まり子、宗野 和夫、小川 修史	北村 美佐子	高橋 宏 谷口 ひとみ、宇佐美 博高、江間 彰夫、 矢部 みはる、片山 秀、木村 幹夫、大石 裕、 五月女 久枝、鈴木 攻、姫野 友美、田中 育恵	湯山 茂徳、小宮 幸夫 安倍 敏陽、小林 俊隆、田村 勉、望月 猛、 横山 文子、平岩 正史、石川 嘉和、沢井 良輔、 高橋 宏	増井 喜一郎、高橋 成彰、望月 光、佐野 幾子、 池田 幸司、竹田 徹、北條 正裕、伊東 成師、 三上 瞬夫、富谷 史子、遠藤 とも子	水越 伸昭、小木 勝実、野口 洋一、杉山 順一、 吹井 承三、杉山 昇、成田 恵理子、古谷 良樹、 塩谷 立、柳沢 正芳、生駒 光博、小澤 治夫、 古谷 良樹、曾我 恵一	大石 高志 山本 政博、杉山 哲雄、杉山 由紀子、	篠原 良孝、野呂 克実、西野 直樹、松永 吉隆、 渡水 実根子、富永 武則、増井 敬、久能 泰可、 久能 淑子、鈴木 秀孝、中村 豊、馬場 信幸、 青木 興治
山下 雅子、深沢 英昭、佐野 雅明、森田 悅三、 望月 博之、池上 まり子、宗野 和夫、小川 修史	北村 美佐子	高橋 宏 谷口 ひとみ、宇佐美 博高、江間 彰夫、 矢部 みはる、片山 秀、木村 幹夫、大石 裕、 五月女 久枝、鈴木 攻、姫野 友美、田中 育恵	湯山 茂徳、小宮 幸夫 安倍 敏陽、小林 俊隆、田村 勉、望月 猛、 横山 文子、平岩 正史、石川 嘉和、沢井 良輔、 高橋 宏	増井 喜一郎、高橋 成彰、望月 光、佐野 幾子、 池田 幸司、竹田 徹、北條 正裕、伊東 成師、 三上 瞬夫、富谷 史子、遠藤 とも子	水越 伸昭、小木 勝実、野口 洋一、杉山 順一、 吹井 承三、杉山 昇、成田 恵理子、古谷 良樹、 塩谷 立、柳沢 正芳、生駒 光博、小澤 治夫、 古谷 良樹、曾我 恵一	大石 高志 山本 政博、杉山 哲雄、杉山 由紀子、	篠原 良孝、野呂 克実、西野 直樹、松永 吉隆、 渡水 実根子、富永 武則、増井 敬、久能 泰可、 久能 淑子、鈴木 秀孝、中村 豊、馬場 信幸、 青木 興治

95	94	93	92	91
堀川 玲子、岡部 正明、石井 克昌	英 公一	西野 友規	船木 真由美、村松 秀明、東 昌子、伴野 昌厚、渥美 恭弘	青島 裕之、小原 裕子、栗山 雅之、三田村 恵、倉沢 千明、戸崎 弘子、鈴木 忠善、宇佐美恵子、矢西 光彦、菊池 保雅、伊藤 めぐみ、伊藤 義和、岩崎 哲也、前川 系子、小橋 友規子、藤嶋 善彦
菊入 みゆき、尾下 康宏、山本 好久、永江 総宜、牛見 豊、菊入 弘行、寺本 匡俊、鈴木 端、谷口 寛明、小池 一徳、矢部 龍太郎、山田 方敏、山口 道男	松永 啓、亀山 晴信、松野 敦子、小川 志郎、照井 敏、木村 寿克、木村 純子、野中 保晃、谷口 寛明、小池 一徳、矢部 龍太郎、山田 方敏、山口 道男	飯塚 雅人、岡村 幸彦、阿部 哲也、小澤 薫、宮島 友子、志賀浦 伴昭、日比谷 優子、相田 賴子、青木 洋、安藤暢彦、稻葉 繁、海野 典夫、桧垣 龍郎、渡辺 正孝、山岸 泉、英 公一	山川 百合子、笠原 素子、石川 典男、蓮井 慶子、渡邊 典彦、小島 育、曾根 九二子、山田 薫、杉山 貴嗣、種本 学、榎本 京子、作花 理香、浮田 聰、清水 豊日、清水 篤、平松 裕、西野 友規	永田 俊介、川村 朱美、甲斐 祥子、吉田 寛子、園野 康祐、大村 祐生、岡野 素之、浦野 利信、北川 登士彦、熊倉 真由美、日下 淳、徳丸 和宏、白石 由加子、安田 倫子、山川 百合子、笠原 素子、石川 典男、蓮井 慶子、渡邊 典彦、小島 育、曾根 九二子、山田 薫、杉山 貴嗣、種本 学、榎本 京子、作花 理香、浮田 聰、清水 豊日、清水 篤、平松 裕、西野 友規
95	94	93	92	91

119	115	110	109	106	105	103	102	101	100	99	98	97	96	
青山 亮介、	渋谷 泰子	久保田 直之、	遠藤 直紀	河田 教吾、	小沢 康裕、	熊切 勝夫	大江 真理子	萩原 さほり、	吉田 郁、	草谷 緑	日下 雄一郎、	大矢 かおり	山口 智彦、	小澤 靖弘
小坂 倫久、	小林 秀男、	内田 雅彦、	重村 武、	山本 浩志、	赤上 真理子、	尾高 泉、	山下 暢久、	大村 慎一、	五十嵐 寧、	高橋 美穂、	牧田 秀幸	夏目 幸一郎	田村 晋一	青木 正樹、
望月 秀城、	大澤 理	内田 伸、	重村 秀人、	内田 伸、	青木 伸、	山口 智彦、	小澤 靖弘	山口 智彦、	重村 秀人、	内田 伸、	青木 正樹、	田中 真人、	青木 伸、	青木 正樹、

萩原さほり、吉田郁、草谷緑  
大江真理子  
織田佐知子、新間香織、齊藤光美  
河田教吾、小沢康裕、熊切勝夫  
久保田直之、遠藤直紀  
矢田悠  
青山亮介、渋谷泰子

## 鈴与株式会社

代表取締役会長 兼社長 鈴木与平 (76期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1  
TEL 054 (354) 3015 (秘書室)  
京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3  
ビリーヴ大森5F  
TEL 03 (6404) 2100

## 日本レベル印刷株式会社

代表取締役会長 岩井平一郎 (57期)

本 社 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号  
TEL 054 (262) 1111(代)  
東京支社 〒104-0031 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F  
TEL 03 (3272) 4651 (代)

## 建築・不動産活用、アート活動などのご相談はどうぞ ArchitectS Office & Gallery

一級建築士 石川雅英 (94期)

若いクリエイターの支援活動をしています

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 16-16  
T 03 - 5847 - 7785  
F 03 - 5847 - 7788  
architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp  
www.rvstone.com

お茶の心を伝える

## 愛国製茶(株)

代表取締役会長 馬場 泰男 (64期)

本 社  
東京都新宿区西早稲田3-7-9 TEL 03-3207-1611(代表)  
高田馬場店  
東京都新宿区高田馬場4-12-7 TEL 03-3363-6611(代表)

同窓会で人の輪を!!

## 野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3  
麁下ビル6F  
(TEL) 03 (3251) 2348  
(FAX) 03 (3257) 0820

24時間! ニュースを通じて「世界平和」に貢献する

## Record China

日本最大の中華圏情報サイト(日本語)

## Record Japan

中華圏最大の日本情報サイト(中国語)

代表取締役社長・主筆 八牧浩行 (82期)

本社 東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館7F  
TEL 03-3573-7501(代) FAX 03-3573-7503

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

## 鳥巣修税理士事務所

税理士 鳥巣 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17  
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848  
E-mail : tosu@mtj.biglobe.ne.jp

\*昼2時より夜11時まで診療\*

## 医)名泉会タカラ歯科診療所

代表 薫科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分

TEL 0120-376-480

FAX 03-3710-8847

〒153-0051 目黒区上目黒2-18-13

みんなでわいわいガヤガヤと

## ブックカフェ 二十世紀

コーヒーと軽食、夜はワイン他  
貸切パーティー承ります

鈴木 宏 (91期)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5-4 2F  
TEL 03-5213-4853

古本売買 出張買い入れ ご相談

二十世紀記憶装置

## @ワンダー

鈴木 宏 (91期)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5-4  
TEL 03-3238-7415  
フリーダイヤル 0120-154-727